

原 著

保育園児の長期追跡研究

——学童期における身体発育・行動発達と保育開始時期の検討——

佐藤 益子\* 服部 律子\*\* 林 正幸\*\*\*

A Comparative Study on the Growth and Behavioral Development  
of the School-age Day-nursery Children in the Age of Entry in the Nursery

SUMMARY

The physical growth and behavioral development of 432 day-nursery children in school-age were examined in comparison with the age of entry in the nursery. The age of entry divided in under 12 month old group, 12-36 month old group and after 36 month old group. In conclusion, there were not negative but positive effects on the growth and behavioral development in under 12 month old group compared 12-36 month old group and/or after 36 month old group. The relation of early child care and behavioral problem in school-age children will be clarified with the assessment of day-care quality and family characteristics in future research.

群)に分け、学童期の身体発育・行動発達について群間の比較検討を行った。

I 研究目的

近年、母親の就業率が増加し、6歳未満の子どもを持つ母親の62%が家庭の外で働くようになった(小林, 2000)。これに伴い、保育所児童数の中で3歳未満児の占める割合が増加している。著者らは、3歳未満昼間集団保育児の乳児期より学童期に至る身体発育・行動発達について報告してきた(佐藤, 1981・1990・1994)。さらに本報では、3歳未満は脳発育が加速度的であるため、保育開始時期により1歳未満に集団保育を開始した群(I群)と1歳以後3歳未満に開始した群(II群)および3歳以後開始群(III

II 研究対象および方法

京都市内の保育園を卒園した小学1年～6年までの児童1,128名に、身体発育・行動発達に影響すると思われる因子(すなわち妊娠・出産状況, 乳児期の運動・言語・社会性の発達, 栄養, 既往歴, 家族構成, 両親の学歴と勤務状況, 育児協力, 子どもと遊んだ時間, 両親の養育態度)および学童期の生活行動に関する質問紙を郵送し, 回答を得た432名(38.3%)を対象とした(表1)。行動比較に際しては、比較群間の発育背景が等質であることを判別分析により証明し, その上で、4段階の行動評価スコア(佐藤1994)の平均値について、t検定による群比較を行った。現在の身長・体重については、年齢が異なるため、マンテル・ヘンツェル法による $\chi^2$ 検定により交絡因子を除いて比較した。

\* 京都女子大学家政学部教授 (児童保健学)  
Masuko Sato, MD

\*\* 岐阜県立看護大学教授 (母性保健学)  
Ritsuko Hattori, MD

\*\*\* 福島県立医科大学看護学部教授 (情報科学)  
Masayuki Hayashi, MD

### III 結果

#### 1) 比較群間における発育背景等質性の検討

身体発育・行動発達の追跡評価には、それまでの発育背景を考慮する必要があるため、前述の発育背景32因子について、まず保育開始時期群間のt検定による差を検討した。このうち有意差のあった8因子(出生時体重・初歩年齢・医者にかかった回数・家族構成・両親の学歴と勤務形態・育児休暇の有無・父親養育態度)より相関係数の高い項目の一方、すなわち勤務形態と育児休暇を除く6因子について、比較群間の判別分析を行った。判別率は、表2のように男女別の小学低学年・高学年におけるいずれの3群間においても51.4~61.4%の間であり、比較群間の発育背景が等質であることを証明した。

#### 2) 学童期までの身体発育

身長にはいずれの群間にも有意差を認めなかったが、体重では表3の通り、低学年男児においてI・II群間には差がなく、III群はII群に比べ、出生時( $P < 0.02$ )・3歳時( $P < 0.04$ )・就学时( $P < 0.05$ )いずれも、またI群とは出生時( $P < 0.01$ )に、有意に低値であった。また低学年女児においては、III群がI群に比べ、いずれの時期においても有意に低値であった(出生時 $P < 0.03$ , 3歳時 $P < 0.04$ , 就学时 $P < 0.03$ )。しかしながら、高学年の体重では、男女ともいずれの時期においても、保育開始時期による差を認めなかった(表4)。

次に学童期の身体発育を検討する際に、出生時体重・母親の出産年齢・栄養の交絡因子を除いた $\chi^2$ 検定を行った結果、身長では、低学年男児のI群がII群より有意に全国平均値以上の児が多く( $P < 0.05$ )、体重では、高学年女児のI群がII群( $P < 0.05$ )、III群( $P < 0.01$ )いずれよりも有意に全国平均値以上の児が多かった。

#### 3) 学童期の生活調査

「家族での食事回数」、「家にいたくないと思う」、「熱中していること」、「クラブ活動」、「身体鍛錬」、「TV, VTRを見る時間」、「読書数」、「手伝いの時間」、「親友の数」、「学校嫌い」の項目では、いずれの群間にも有意差を認めな

かったが、低学年男児において「保育所を嫌がった」児が、I群がIII群より多く( $P < 0.05$ )、「母親の仕事を良いと思う」は、低学年女児のI群がII群( $P < 0.01$ )およびIII群( $P < 0.02$ )より有意に多かった。

#### 4) 行動発達

動き・情動・意欲・対人関係より、26項目の平均スコアを各群間で比較し(表5, 6, 7, 8), いずれかに有意差のあった16項目を表9に示した。表のすべての有意差は、I群が、II群および、またはIII群より好ましい方向を示した。低学年女児の対人関係における「非自立性」、「攻撃性」、「顕示性」、「自己中心的」、「干渉・支配」の差および低学年男児の情緒「悲しみ」、意欲の「即行性」、対人関係の「攻撃性」の差は、高学年では認めなかった。一方、低・高学年ともに、女児の「移動性多動」( $P < 0.02$ )、「粘着性」( $P < 0.02$ )、男児の「怒り」( $P < 0.03$ )は、I群が有意に低スコアであった。

### IV 考察

保育園児の学童期における身体発育・行動発達を保育開始時期により検討した。比較に際し、保育開始時期以外の発育・発達に影響する因子について判別分析を行い、比較群間に発育背景が等質であることを証明した上で、12カ月未満保育開始群の方が、それ以後開始群より、男児の「保育所に行きたくない」を除いて、マイナス面はなく、むしろプラス面が多いことを明らかにした。

保育所入所時期別の発育値については、高野ら(1992)による月齢60カ月までの検討において、12カ月未満開始群が、12~24カ月開始群より大きいことが報告されている。

保育所入所時期と幼児期における行動について、Hausfatherら(1997)は、保育所の質が関係し、質の高い長期保育は、4~5歳時の関心・意欲を増し、質の低い長期保育は、怒り・防衛を増すが、この影響には、家族特性が関係すると報告している。

一方、Deater-Deckardら(1996)によると、141名の学童について、幼児期に経験したデイケ

アの質と家庭環境の評価後、4年間の行動適応を追跡し、デイケアの質ではなく、家庭環境に予測的意義があるとしている。

乳幼児保育と2, 3歳時の自制心, 素直さ, 問題行動との関連については, 米国・国立小児保健・人間発達研究所 (NICHD) による研究報告 (1998) があるが, これらには乳幼児保育経験より mothering (子どもへの話しかけ, 子どもに答える, 抱きしめ, 愛撫するなど) がより強く影響し, 最も一貫した予測因子は, 保育の質であったと述べられている。

就学前の社会性, 情緒発達には, 18カ月から24カ月の代理養育 (substitutional care) が最も過敏であり, 男児は女児より negative に影響されることが, Moore (1996) らによる親と先生の行動評価より明らかにされている。

著者らは, 近年の社会不適応や不登校を未然に予防するため, 幼児期の行動発達における注意欠陥・多動障害早期発見のためにスクリーニングテストの開発を試みた (佐藤, 1996)。これを用いて, 乳児保育開始時期別の幼児期における行動発達を報告したが (佐藤, 2001), 幼児期では開始時期による有意差を認めなかった。今回, 学童期では, 学校現場において直にこのようなテストを行うことに協力が得難く, 親へのアンケート送付による調査方法を余儀なくされた。Tasse ら (2000) は, 109名の学童の行動スコアについて, 親と教師の評価を比較し, 行為障害, 不安障害, 多動障害の問題行動の下位評価に有意差があり, 問題行動の評価には多面的な情報が必要であると報告している。今回の報告は親のアンケート回答のみによる比較であるが, 保育開始時期別の発育背景が均質であることを検討した上での比較であり, その差は保育開始時期によると理解できる。

小学生の衝動性と過敏性について, Victor ら (1975) は, 問題チェックリストを用いて検討し, 過敏性は男女ともに学年が進むと有意に減少し, これに反し衝動性は男児が女児より高く, 学年差はなかったと報告している。報告年度は異なるが, 本検討では, 低学年における「攻撃性」の差は, 高学年では認めなかった。

学童期における行動問題の早期介入に対する

評価, フォローアップなどの検討において, 問題行動を持つ児童を早期に同定し, より重大な問題を持つ児童は直ちに専門家に紹介することにより, アルコール中毒, 不登校の発生を有意に減少できる (Nutting, 1979)。

乳児期の昼間母子分離が発達に及ぼす影響については, 保育所の設備や保育士数よりも保育士の子どもへの働きかけなどの質を含み, 検討の余地があるが, 否定的見解は少ない。今後, 乳児保育の質評価基準を考慮した全国規模の行動問題への取り組みが望まれる。

## V 結 論

保育園児の学童期における身体発育・行動発達を保育開始時期により検討した。比較に際し, 保育開始時期以外の発育・発達に影響する因子を処理した上で, 12カ月未満保育開始群の方が, それ以後開始群より, 男児の「保育所に行きたくない」を除いて, negative な面はなく, むしろ positive な面が多いことが明らかにされた。

今後, さらに保育の質を評価し, 行動問題を含む乳児保育の長期追跡が必要と考える。

## 参 考 文 献

- 1) Deater-Deckard K, Pinkerton R, Scarr S (1996) Child care quality and children's behavioral adjustment: a four-year longitudinal study. *J Child Psychol Psychiatry* 37: 937-48.
- 2) Hausfather A (1997) Effects of age of entry, day-care quality, and family characteristics on preschool behavior. *J Child Psychol Psychiatry* 38: 441-8.
- 3) 小林 登 (2000) 21世紀の子育てを考えよう—NICHD 乳幼児保育研究から学ぶ— *小児科診療* 63: 1078-85.
- 4) Moore DR (1996) Substitute child care at different ages: relationship to social-emotional functioning in preschool. *Am J Orthopsychiatry* 66: 305-8.
- 5) Nutting PA, Price TB, Baty ML (1979) Non-health professionals and the school-age child: early intervention for behavioral problems. *J Sch Health* 49: 73-8.
- 6) 佐藤益子 (1981) 乳幼児昼間集団保育の身体発育および精神・行動発達への影響 *小児保健研究* 40: 265-70.

- 7) 佐藤益子 (1990) 乳児昼間集団保育の追跡研究—幼児期の身体発育, 行動発達— 小児保健研究 49: 332-6.
- 8) 佐藤益子 (1994) 3歳未満昼間集団保育児の学童期における身体発育, 行動発達 児童学研究 24: 3-12.
- 9) 佐藤益子, 服部律子, 林 正幸 (1996) 幼児・学童における神経学的徴候陽性児スクリーニングの試み 小児保健研究 55: 768-77.
- 10) 佐藤益子 (2000) 保育園児の長期追跡研究 幼児期における精神・行動発達と保育開始時期の検討 児童学研究 30: 3-11.
- 11) 汪 玲, 高野 陽 (1992) 保育所入所児童の発育発達に関する研究 第1報 身体発育と所要時間と

- の関係について 小児保健研究 51: 356-60.
- 12) 佐藤益子, 雲出芳子 (2001) 保育園児の行動発達に関する追跡研究—一年中・年長児における注意欠陥・多動障害スクリーニングの保育所入所月齢による比較検討— 第48回日本小児保健学会 講演集 356-7.
- 13) The NICHD Early Child Care Research Network (1998) Early child care and self-control, compliance, and problem behavior at twenty-four and thirty-six months. Child Dev 69: 1145-70.
- 14) Victor JB, Halverson CF (1975) Distractibility and hypersensitivity. Two behavior factors in elementary school children. J Abnorm Child Psychol: 3, 83-94.

表1 対象数

保育開始時期	低学年		高学年		合計
	男児	女児	男児	女児	
I 群	30	15	28	23	96
II 群	56	39	51	38	184
III 群	38	31	43	40	152
合計	124	85	122	101	432

表2 背景因子の比較群判別率 (%)

比較群	低学年		高学年	
	男児	女児	男児	女児
I - II群	53.3	59.2	53.7	61.4
II - III群	54.0	62.2	55.7	51.4
III - I群	56.3	57.1	54.4	61.4

表3 保育開始時期別体重比較 (小学低学年)

(平均±標準偏差)

	男児			女児		
	出生時 (gr)	3歳時 (kg)	就学時 (kg)	出生時 (gr)	3歳時 (kg)	就学時 (kg)
I 群	3330±469 n=30	14.3±1.7 n=23	20.7±3.9 n=19	3253±410 n=28	14.3±1.3 n=26	21.5±4.1 n=17
t 検定	NS	NS	NS	NS	NS	NS
II 群	3260±400 n=56	14.6±1.6 n=48	21.5±3.1 n=38	3253±457 n=51	13.6±2.5 n=43	20.2±4.3 n=29
t 検定	p<0.02	p<0.04	p<0.05	NS	NS	NS
III 群	3051±345 n=38	13.9±1.6 n=34	19.4±2.7 n=28	2999±460 n=43	12.9±3.3 n=34	18.9±1.6 n=26
t 検定	p<0.01	NS	NS	p<0.03	p<0.04	p<0.03
I 群	3330±469 n=30	14.3±1.7 n=23	20.7±3.9 n=19	3253±410 n=28	14.3±1.3 n=26	21.5±4.1 n=17

表4 保育開始時期別体重比較 (小学高学年)

(平均±標準偏差)

	男児			女児		
	出生時 (gr)	3歳時 (kg)	就学時 (kg)	出生時 (gr)	3歳時 (kg)	就学時 (kg)
I 群	3348±449 n=15	13.9±1.8 n=13	19.7±1.7 n=5	3132±357 n=23	14.3±1.3 n=26	21.5±4.1 n=17
t 検定	NS	NS	NS	NS	NS	NS
II 群	3193±452 n=39	14.3±1.6 n=35	21.2±3.6 n=27	3221±448 n=38	14.0±1.4 n=34	20.6±3.5 n=16
t 検定	NS	NS	NS	NS	NS	NS
III 群	3241±433 n=31	14.4±1.8 n=24	19.8±5.1 n=18	3144±328 n=40	13.8±1.2 n=30	20.0±2.4 n=24
t 検定	NS	NS	NS	NS	NS	NS
I 群	3348±449 n=15	13.9±1.8 n=13	19.7±1.7 n=5	3132±357 n=23	14.3±1.3 n=26	21.5±4.1 n=17

表5 小学低学年における行動スコアの群比較 (男子)

領域	I群		t 検定	II群		t 検定	III群		t 検定	I群		
	平均	SD		平均	SD		平均	SD		平均	SD	
動き	1	.144	.160	-1.0226	.188	.201	-0.0765	.192	.221	-0.9818	.144	.160
	2	.093	.123	0.4392	.079	.147	-0.0120	.079	.159	0.3823	.093	.123
	3	.029	.101	-0.9283	.052	.111	1.3830	.027	.063	0.0998	.029	.101
情動	1	.121	.160	-1.2897	.179	.248	1.2520	.123	.181	-0.0481	.121	.160
	2	.052	.101	-2.2380	.119	.171	0.2603	.110	.129	-1.9921	.052	.101
	3	.068	.136	-2.9897	.201	.274	0.3115	.183	.276	-2.2402	.068	.136
	4	.183	.245	-1.3132	.255	.238	0.5183	.227	.281	-0.6768	.183	.245
	5	.080	.144	-0.8859	.114	.183	0.4201	.098	.172	-0.4703	.080	.144
	6	.041	.086	-0.6719	.057	.121	0.7762	.040	.090	0.0437	.041	.086
意欲	1	.196	.227	0.7035	.164	.186	-0.0922	.167	.177	0.5829	.196	.227
	2	.248	.221	-0.4391	.270	.218	0.0631	.267	.217	-0.3554	.248	.221
	3	.224	.185	0.2090	.214	.222	-0.4124	.233	.217	-0.1795	.224	.185
	4	.051	.118	-2.2127	.130	.207	-1.3302	.192	.240	-3.1450	.051	.118
	5	.071	.136	-1.1732	.112	.164	0.1914	.106	.162	-0.9401	.071	.136
	6	.080	.144	-0.5662	.103	.191	0.9102	.071	.138	0.2385	.080	.144
	7	.168	.154	0.2752	.158	.155	-0.3710	.171	.170	-0.0710	.168	.154
対人関係	1	.102	.155	-2.1376	.196	.244	1.3590	.131	.198	-0.6370	.102	.155
	2	.006	.032	-1.8095	.027	.077	-0.2219	.031	.077	-1.8346	.006	.032
	3	.044	.088	0.0344	.043	.090	0.3422	.038	.064	0.3325	.044	.088
	4	.095	.117	0.6595	.077	.121	0.2736	.070	.125	0.8386	.095	.117
	5	.185	.174	0.9675	.146	.177	-0.0690	.148	.171	0.8575	.185	.174
	6	.133	.196	0.5507	.113	.146	0.0726	.110	.191	0.4927	.133	.196
	7	.047	.089	-1.9867	.098	.123	0.7366	.080	.101	-1.4135	.047	.089
	8	.114	.205	0.1406	.108	.181	-1.7074	.183	.241	-1.2326	.114	.205
	9	.111	.154	-0.2660	.121	.148	-1.5676	.180	.199	-1.5388	.111	.154
	10	.253	.330	-0.4202	.284	.324	0.3241	.263	.302	-0.1274	.253	.330

表6 小学低学年における行動スコアの群比較 (女子)

領域	I群		t 検定	II群		t 検定	III群		t 検定	I群		
	平均	SD		平均	SD		平均	SD		平均	SD	
動き	1	.069	.102	-2.3889	.141	.162	-0.2127	.149	.197	-2.1699	.069	.102
	2	.069	.085	0.1276	.066	.108	-0.5181	.082	.162	-0.4083	.069	.085
	3	.025	.076	0.9050	.010	.052	-0.8726	.021	.068	0.2156	.025	.076
情動	1	.087	.163	-1.3094	.143	.190	1.1698	.100	.150	-0.3518	.087	.163
	2	.056	.103	-0.2518	.063	.129	0.4967	.051	.109	0.2046	.056	.103
	3	.172	.214	0.5774	.145	.179	-0.8911	.191	.281	-0.2998	.172	.214
	4	.184	.232	-0.5971	.219	.258	1.0376	.166	.226	0.3204	.184	.232
	5	.051	.121	-0.0689	.053	.122	-1.6852	.125	.247	-1.6178	.051	.121
	6	.020	.055	-1.3710	.044	.100	-0.0757	.046	.113	-1.2611	.020	.055
意欲	1	.071	.107	-2.3221	.147	.146	0.3062	.137	.144	-1.9996	.071	.107
	2	.179	.193	-1.1719	.228	.161	-0.0225	.229	.208	-0.9802	.179	.193
	3	.154	.169	0.9468	.157	.184	-0.8117	.192	.215	-0.7465	.154	.169
	4	.038	.108	-2.0774	.108	.184	1.2188	.100	.188	-1.6876	.038	.108
	5	.039	.086	-1.9436	.089	.137	-0.6053	.109	.176	-2.1596	.039	.086
	6	.038	.108	-1.3847	.081	.160	0.4416	.066	.154	0.8114	.038	.108
	7	.103	.134	-1.0818	.143	.159	-1.0831	.183	.191	-1.8502	.103	.134
対人関係	1	.110	.159	-0.2816	.121	.175	-1.5256	.196	.262	-1.5204	.110	.159
	2	.....	.....	.....	.021	.065	-0.8899	.038	.111	.....	.....	.....
	3	.025	.057	-0.4957	.033	.088	0.1497	.031	.075	-0.3247	.025	.057
	4	.038	.082	-1.4777	.077	.143	0.1962	.071	.128	-1.2526	.038	.082
	5	.083	.165	-0.9053	.118	.156	-0.4446	.136	.209	-1.0698	.083	.165
	6	.052	.092	-2.1846	.109	.134	0.8564	.086	.120	-1.2234	.052	.092
	7	.020	.055	-3.7685	.086	.098	0.1774	.082	.115	-2.9394	.020	.055
	8	.051	.121	-2.6017	.141	.179	0.9610	.102	.205	-1.1539	.051	.121
	9	.063	.094	-2.2277	.128	.157	-0.2973	.139	.176	-2.2353	.063	.094
	10	.191	.214	-1.8035	.306	.333	-0.7457	.358	.329	-2.4852	.191	.214

表7 小学高学年における行動スコアの群比較（男子）

領域	I群		t 検定	II群		t 検定	III群		t 検定	I群		
	平均	SD		平均	SD		平均	SD		平均	SD	
動き	1	.119	.160	-0.1177	.124	.157	-2.6878	.242	.206	-1.9780	.119	.160
	2	.048	.102	-1.9175	.124	.182	-1.3516	.196	.256	-2.7063	.048	.102
	3	.012	.045	-1.4155	.039	.089	-0.2317	.046	.147	-1.1281	.012	.045
情動	1	.108	.155	0.3816	.091	.143	-0.6326	.115	.179	-0.1311	.108	.155
	2	.049	.080	-2.3449	.132	.179	-0.0022	.132	.219	-1.8223	.049	.080
	3	.083	.141	-0.7652	.132	.223	-0.8099	.183	.303	-1.4836	.083	.141
	4	.165	.171	0.0557	.161	.227	-0.9302	.218	.271	-0.6618	.165	.171
	5	.071	.141	-1.1851	.139	.199	-0.3540	.160	.276	-1.4061	.071	.141
	6	.036	.096	0.0422	.035	.079	-1.4941	.072	.128	-0.9414	.036	.096
意欲	1	.181	.153	-0.0612	.185	.244	-0.3315	.208	.314	-0.3778	.181	.153
	2	.263	.250	0.3763	.239	.185	-1.0399	.305	.309	-0.4490	.263	.250
	3	.168	.185	-1.2823	.261	.247	-0.8888	.316	.267	-1.8685	.168	.185
	4	.024	.088	-2.6126	.136	.226	-0.0586	.133	.257	-2.0856	.024	.088
	5	.084	.143	-0.2634	.095	.119	0.6471	.072	.162	0.2291	.084	.143
	6	.024	.088	-2.1068	.131	.181	-0.2366	.144	.286	-2.1024	.024	.088
	7	.108	.192	-1.1722	.163	.134	-0.0354	.162	.181	-0.8986	.108	.192
対人関係	1	.071	.141	-2.1168	.187	.251	-1.1930	.200	.285	-2.0077	.071	.141
	2	.....	.....	.....	.....	.....	-1.1668	.078	.209	.....	.....	.....
	3	.028	.057	-1.2680	.055	.073	-1.0256	.085	.135	-1.9082	.028	.057
	4	.039	.093	-0.1703	.045	.122	-1.6038	.094	.127	-1.4310	.039	.093
	5	.084	.109	-1.3599	.147	.159	-1.1177	.205	.250	-2.2368	.084	.109
	6	.047	.120	-1.9000	.134	.154	-1.3262	.206	.268	-2.7196	.047	.120
	7	.084	.109	-0.9957	.129	.155	-0.0026	.129	.168	-0.9127	.084	.109
	8	.071	.141	-0.5720	.105	.207	-0.5947	.077	.168	-0.1281	.071	.141
	9	.079	.118	-2.6679	.202	.211	-0.2999	.218	.254	-2.4915	.079	.118
	10	.142	.283	-0.1413	.152	.201	-0.6817	.195	.289	-0.5668	.142	.283

表8 小学高学年における行動スコアの群比較（女子）

領域	I群		t 検定	II群		t 検定	III群		t 検定	I群		
	平均	SD		平均	SD		平均	SD		平均	SD	
動き	1	.057	.093	-2.0327	.134	.165	-0.2390	.143	.173	-2.5402	.057	.093
	2	.138	.185	1.9169	.054	.124	-1.6553	.116	.195	0.4350	.138	.185
	3	.022	.076	-0.0429	.023	.090	-0.1501	.026	.081	-0.1873	.022	.076
情動	1	.072	.130	-1.3113	.130	.208	-0.3617	.146	.188	-1.6577	.072	.130
	2	.051	.118	-1.1190	.099	.213	-0.1687	.107	.200	-1.3856	.051	.118
	3	.058	.164	-1.3452	.127	.210	-1.0749	.184	.251	-2.3866	.058	.164
	4	.075	.228	-1.9060	.216	.296	0.6248	.178	.214	-1.7637	.075	.228
	5	.045	.116	-1.7088	.130	.264	0.2027	.119	.209	-1.5331	.045	.116
	6	.....	.....	.....	.....	.....	0.1799	.056	.104	.....	.....	.....
意欲	1	.023	.060	-2.9943	.111	.159	-0.8724	.145	.180	-3.8839	.023	.060
	2	.122	.127	-3.0575	.274	.249	1.3012	.206	.200	-2.0015	.122	.127
	3	.159	.139	-0.7181	.189	.167	-0.7823	.223	.200	-1.3178	.159	.139
	4	.030	.097	-1.5556	.092	.204	0.1526	.085	.183	-1.5381	.030	.097
	5	.060	.120	-0.9994	.102	.170	-0.5022	.124	.208	-1.5133	.060	.120
	6	.060	.130	-1.4108	.123	.181	0.6832	.093	.186	-0.7477	.060	.130
	7	.138	.216	-0.6507	.172	.178	0.6857	.147	.139	-0.1748	.138	.216
対人関係	1	.115	.190	-0.7490	.162	.256	-0.1481	.170	.252	-0.9049	.115	.190
	2	.029	.082	-0.6156	.050	.175	0.0872	.047	.126	-0.6646	.029	.082
	3	.038	.053	0.5170	.030	.062	-1.5972	.062	.109	-1.0864	.038	.053
	4	.033	.077	-1.1920	.099	.016	-0.8326	.088	.161	-1.7823	.033	.077
	5	.030	.066	-2.2083	.099	.173	-0.1992	.107	.164	-2.6142	.030	.066
	6	.087	.173	-0.4387	.109	.194	0.7098	.082	.132	0.1391	.087	.173
	7	.073	.099	-1.1150	.114	.180	-0.0607	.116	.196	-1.1436	.073	.099
	8	.043	.114	-1.7469	.116	.210	0.5241	.193	.169	-1.3967	.043	.114
	9	.105	.122	-1.5800	.170	.195	0.7010	.141	.155	-0.9622	.105	.122
	10	.317	.236	0.4028	.288	.296	0.3629	.264	.267	0.7849	.317	.236

表9 保育開始時期別行動スコア比較 (有意差の項目のみ；t検定すべてI群が低い)

群	小学低学年								小学高学年								
	男 児				女 児				男 児				女 児				
	I	II	III	I	I	II	III	I	I	II	III	I	I	II	III	I	
動き	移動性多動					p<0.02											
	寡動																p<0.02
情動	怒り	p<0.03															
	悲しみ	p<0.003	p<0.03														p<0.03
意欲	粘着性																p<0.001
	固執性																p<0.005
欲	転動性散漫																p<0.004
	即行性																p<0.05
対人関係	消極性																p<0.006
	はにかみ	p<0.03															p<0.005
対人関係	依存性																p<0.005
	非自立性																p<0.03
対人関係	攻撃性	p<0.03															p<0.009
	顕示性																p<0.001
対人関係	自己中心的																p<0.004
	干渉・支配																p<0.02